

# 体育専攻学生のバスケットボールの 授業に対する態度とパーソナリティ

石 村 宇佐一      竹 田 完 治  
矢 部 俊 政      野 口 義 之

## はじめに

体育の授業に対する学習者の態度は、ほかの教科の授業に対するものよりは好意的なものである。特に、小学校における好きな教科の筆頭に体育があげられることが多い。また、体育の授業においても、その学習内容（教材）によってそれぞれ違った学習態度がみられることも知られている。一般に、鉄棒運動や持久走を学習する体育の授業には、非好意的態度がみられ、球技や野外活動、その他のレクリエーションな教材の授業は好意的にうけとられている。およそ、授業に対し、はじめから好意的態度がみられるなら学習効果も期待できようし、その反対に非好意的、拒否的態度を示すなら授業の展開は困難である。このような体育の授業に対する態度は、学習内容の特質だけによるものであろうか。学習者の側の教材に対する心理的態度（性格特性）にも関係するのではないかと考えられる。

## 目 的

金沢大学の体育専攻学生が、体育の授業、なかでも球技の代表的種目であるバスケットボールの授業に対して、どんな態度をとっているかを調査し、それが性格特性とどんな関係にあるかを明らかにしようとするものである。

## 方 法

### 1 調査対象

標本は、金沢大学教育学部高等学校教員養成課程、特別教科（保健体育）教員養成課程の三学年の学生36名である。

成課程、特別教科（保健体育）教員養成課程の三学年の学生36名である。

### 2 調査期日

調査の実施期間は、昭和57年度前期の授業中である。

### 3 調査手続き

#### a) 態度の評定

バスケットボールの授業に対する態度の調査にあたっては、専門課程はもちろん、過去、中学校や高等学校などで受けたバスケットボールを教材とした授業を思い出させて、それに対する態度をLikert法によって22項目について評定させた。体育の授業に対する態度の調査については、27項目のstatementを作成した。

回答は5段階評定、たとえば、(5点)「強く賛成である」、(4点)「賛成である」、(3点)「賛成、反対のどちらともいえない」、(2点)「反対である」、(1点)「強く反対である」、という方法によって行った。したがって、評定点の数値が大きいほどバスケットボールの授業に対して好意的態度を持っているといえる。ただし、質問項目中、非好意的意見があるが、これらの項目は逆スケールの項目であり数値が小さければ小さいほど好意的意見である。※印の項目は逆スケールの項目である。

調査は集団調査形式で行われた。

#### b) 性格検査について

性格検査にあたっては、矢田部・ゴルフ

ォード (Guilford, J. P) の性格検査 (一般用) を使用した。これは 通称 Y-G 性格検査といわれるもので 120 項目の質問からなっている。これら各々の質問について、「はい」、「いいえ」、「どちらでもない」の三つのうちどれか一つを自分で自分の考えに従って解答するものである。

c) スキル・テストについて

スキル・テストについては、日本バスケットボール協会作成の 5 項目 (1) 30 秒ショット、(2) セット・ショット、(3) ドリブル・ターン、(4) リバウンド・パス、及び (5) 3 回連続ジャンプからなるスキル・テストを実施した。

第 1 表 バスケットボールの授業に対する態度の評定の平均値と標準偏差

「評定の段階」

		5	4	3	2	1	平均	標準偏差
		<p>強くさんせいである。      さんせいである。      さんせい、反対のどちらともいえない。      反対である。      強く反対である。</p>						
1.	( ) の授業はおもしろい。.....					1	4.2	0.7
2.	( ) の授業はからだの動きを機敏にする。.....					2	4.3	0.7
3.	( ) の授業は危険から身を守るのに役立つ。.....					3	3.1	0.6
4.	( ) の授業は気分転換になる。.....					4	3.7	0.7
※ 5.	( ) の授業は嫌いである。.....					5	1.9 (4.1)	0.7
6.	( ) の授業は公正な態度を養う。.....					6	3.3	0.5
7.	( バ ) の授業は根性を養う。.....					7	3.1	0.8
8.	( ス ) の授業は姿勢がよくなるようにする。.....					8	2.5	0.6
9.	( ケ ) の授業は社会生活のためになる。.....					9	3.0	0.7
10.	( ッ ) の授業は心身の発達に役立つ。.....					10	3.6	0.6
11.	( ト ) の授業は情緒を安定させる。.....					11	2.8	0.6
12.	( ボ ) の授業は好きである。.....					12	4.0	0.7
13.	( ー ) の授業は生活を楽しくする。.....					13	3.3	0.8
14.	( ル ) の授業は精神をきたえてくれる。.....					14	3.2	0.7
15.	( ) の授業は技能がうまくなるようにする。.....					15	4.0	0.8
16.	( ) の授業はたくましいからだをつくる。.....					16	3.5	0.7
※ 17.	( ) の授業はつまらない。.....					17	2.0 (4.0)	0.7
18.	( ) の授業は人間性を豊かにする。.....					18	3.1	0.4
19.	( ) の授業は人づきあいをよくする。.....					19	3.5	0.6
20.	( ) の授業は人を明朗にする。.....					20	3.3	0.6
21.	( ) の授業は友人関係を育てる。.....					21	3.7	0.7
22.	( ) の授業はよい性格をつくる。.....					22	3.1	0.4
※: 非好意的意見							平均: 3.473	

すべての計算は石川工業高等専門学校の  
計算機センターの HITAC 8250 によった。

**結果と考察**

**1 バスケットボールを教材とした授業に対する態度**

a) 評定点の平均値と標準偏差について

バスケットボールの授業に対する態度の評定項目と、その評定点の平均値および標準偏差を第1表に示した。

評定点の高いものをあげると次のとおりである。

バスケットボールの授業は、

- Q 2 からだの動きを機敏にする。 4.3
- Q 1 おもしろい。 4.2

- Q12 すきである。 4.0
- Q15 技能がうまくなるようにする。 4.0
- Q 4 気分転換になる。 3.7
- Q21 友人関係を育てる。 3.7
- Q10 心身の発達にやくにたつ。 3.6
- Q16 たくましいからだをつくる。 3.5
- Q19 人づきあいを良くする。 3.5

**b) 因子構造と因子名**

因子分析にあたっては、共通性を 1.00 として主因子法で因子を抽出した後、ノーマル・バリマックス法によって因子軸の回転を行った。その結果、六つの因子が共通因子として抽出された。バリマックス回転後の結果は第2表に示すとおりである。次に一つの因子に .450以上の因子負荷量を示す代表的な項目をリストして、

第2表 バスケットボールの授業に対する態度の回転後の因子行列

項目 \ 因子	K 1	K 2	K 3	K 4	K 5	K 6	K 7	h <sup>2</sup>
1	.833	-.026	.367	-.011	-.133	-.204	-.144	.923
2	-.215	.271	.329	-.005	.283	-.376	.071	.630
3	-.432	.344	.494	.029	-.095	.220	.066	.630
4	.565	.167	.449	-.010	-.120	.087	.032	.678
5	-.840	-.018	-.353	.120	.173	.247	.169	.987
6	-.042	.581	.052	-.138	-.494	.187	-.301	.767
7	.414	.468	-.064	-.240	.501	.154	.056	.775
8	.235	.531	-.016	-.160	.046	.066	-.271	.572
9	.148	.375	.446	-.016	-.084	.663	.000	.814
10	-.008	.499	.512	.000	.546	-.026	.026	.836
11	.087	.384	.609	.064	-.052	.166	.292	.710
12	.866	-.105	.295	-.137	-.046	-.122	-.002	.891
13	.151	.257	.535	.073	.047	-.184	-.111	.532
14	.340	.579	.174	-.163	.517	-.215	.204	.896
15	.500	.120	-.159	-.238	.190	-.019	-.336	.501
16	.296	.306	-.121	-.204	.412	.051	-.090	.500
17	-.756	.013	-.370	.087	.190	.070	.265	.830
18	-.130	.636	-.010	-.213	-.180	-.353	-.080	.634
19	.208	.805	.149	-.189	-.309	-.140	-.007	.872
20	.455	.388	-.024	-.184	-.179	-.124	.490	.696
21	.188	.697	.138	-.152	-.288	.282	.462	.945
22	.413	.242	-.028	-.208	-.257	.539	.211	.694
PRO VALUE	4.480	3.855	2.275	.460	1.779	1.463	1.063	16.313
PRO RATIO	.275	.236	.139	.028	.109	.090	.065	
ADDED R.	.275	.511	.650	.679	.788	.877	.942	

因子の解釈を行った。

第1因子において高い因子負荷量を示す項目は次のとおりである。Q1(バスケットボール)の授業は好きである(.866)。Q5(バスケットボール)の授業は嫌いである(-.840)であった。この項目は、面白いというプラスの方向の因子と、その逆のいやなもの、つまらないというマイナス方向の因子、すなわち好き-嫌いの態度を表している。そこで第1因子を「好き-嫌い」の因子と命名した。

第2因子において高い因子負荷量を示す項目は、次の通りである。Q19(バスケットボール)の授業は人づきあいをよくする(.805)。Q21(バスケットボール)の授業は友人関係を育てる(.697)などであった。そこで第2因子を「人間関係」の因子と命名した。

第3因子で高い因子負荷量を示す項目は、次のQ11(バスケットボール)の授業は情緒を安定させる。Q13(バスケットボール)の授業は生活を楽しむなどであった。従って第3因子を「情緒の安定」と命名した。

第4因子における高い因子負荷量を示す項目はなく第4因子の命名は困難であった。

第5因子における高い因子負荷量を示す項目は、次のQ14(バスケットボール)の授業は精神をきたえてくれる(.510)。Q7(バスケットボール)の授業は根性を養う(.510)であった。従って第5因子を「精神的効果」の因子と命名した。

第6因子における高い因子負荷量を示す項目は、次のQ19(バスケットボール)の授業は社会生活のためになる。従って第6因子を「社会生活への貢献」の因子と命名した。

第7因子における高い因子負荷量を示す項目は、次のQ20(バスケットボール)の授業は人を明朗にする(.490)であった。そこで第7因子を「性格への影響」の因子と命名した。

これをまとめると第3表のとおりとなり、バスケットボールに対する態度は好意的なものを基盤にして、体育的效果(目的)の諸因子によって構築されているものと思われる。

第3表 バスケットボールの授業に対する態度の因子と因子負荷量

因 子	項 目	因 子 負 荷 量
第1因子：因子名……好き-嫌い	(12) 好きである。	.866
	(5) 嫌いである。	-.840
	(1) おもしろい。	.833
第2因子：因子名……人間関係	(19) 人づきあいをよくする。	.805
	(21) 友人関係を育てる。	.697
第3因子：因子名……情緒の安定	(11) 情緒を安定させる。	.609
	(13) 生活を楽しむ。	.535
第4因子：因子名……命名困難		
第5因子：因子名……精神的効果	(14) 精神をきたえてくれる。	.517
	(7) 根性を養う。	.501
第6因子：因子名……社会生活への貢献	(9) 社会生活のためになる。	.663
	(22) よい性格をつくる。	.539
第7因子：因子名……性格への影響	(20) 人を明朗にする。	.490

## 2 Y-G性格検査による性格特性

Y-G性格検査の得点により、その特性別の平均値と標準偏差を示すと第4表のとおりである。各特性の平均値をプロットしていき性格特性のプロフィールをしめしたのが第1図である。標本になっている学生のパーソナリティは、活動的Ag(lack of agreeableness)、衝動的G(general activity)、内省的でないR(rhathymia)、T(thinking extraversion)、主導権をにぎるA(ascendance)、S(social extraversion)の特性が高く、情緒的に安定D(depression)、C(cyclic tendency)、I(inferiority feeling)、N(nervousness)が低く、社会的適応O(lack of objectivity)、Co(lack of cooperativeness)も低いという、いわゆるスポーツマンの性格をもっている。これは野口(1959)が運動選手の性格特性についてうつ性が少なくのんきであり、一般的活動性にすぐれ、神経質でな

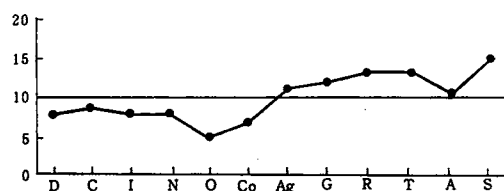
第4表 性格特性の平均値と標準偏差

	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
平均値	7.6	8.8	7.3	7.4	5.5	6.1	11.4	11.9	13.1	13.0	10.5	14.5
標準偏差	5.23	4.63	4.83	4.84	3.61	3.70	4.42	4.68	4.24	3.48	5.26	4.02

く、攻撃的であるという報告と一致している。

### 3 授業時におけるバスケットボールのスキルテスト

第5表はバスケットボールの授業におけるスキルテストの成績を示したものである。学生のバスケットボールの基礎的技術の水準は体育専



第1図 性格特性のプロフィール

第5表 バスケットボール授業におけるスキルテストの結果

テスト種目		1) 連続3回ジャンプ	2) 30秒ショット	3) ドリブルターン	4) セットショット	5) リバウンドパス
♂ N=30	M	56.6cm	43.6	19.2	12.7	21.5
	S.D	6.46	6.87	2.52	7.13	2.26
♀ N=6	M	45.5cm	32.8	21.2	7.2	23.1
	S.D	2.21	10.65	0.97	10.24	5.59

攻学生だけあって、かなり高い技術の習得度を示しており、バスケットボールのゲームを十分楽しめる程度のスキルをもっていると思われる。一般に技術の習得度が高く、うまくできるという学習内容は好まれるが、その反対のものは嫌われる傾向がある。器械運動のように個人スポーツであり、なおできる、できないが明瞭な学習内容は最も非好意的にうけとられるものである。ここで、バスケットボールがうまいから好きであるのか、逆に好きであるからうまいのかは明確ではないが、いずれにしても、バスケットボールの授業は未熟な者は未熟なりに、ゲームに参加できるところに、かなり高い好意度がみられると推察される。

### まとめ

授業を教師と学生の活動の相互作用という観点からみた場合、この授業は教授・学習過程であるとする見方がある。つまり授業を構成する要素は教師、教材、学生の三つの相互関係の面からとらえる立場である。この授業場面を構成

する多くの条件、要因のなかで、体育の授業に対する態度の函数は教師、教材、施設、用具、その他の環境条件があげられる。そのなかでも教材（学習内容）の性格が、学習者の興味と関心を引く最も重要な要因のように思われる。ところが、すべて教材（学習内容）の性格によるというのではなく、学習者にも原因があると推察される。いわゆる、学習者の性格(Personality)がもう一つの要因ではないかと考えられる。そこで本研究では、体育専攻学生を対象として、バスケットボールの授業に対する態度を測定し、他方、Y-G性格検査を行い、この授業に対する態度がパーソナリティの性格特性とどうかかわりをもつかを検討した。それと同時に、態度と性格との関係において、バスケットボールのスキルテストの成績についても考察した。

結果の概要は凡そ次のとおりであった。

1 バスケットボールを教材とした授業に対する態度は、体育専攻学生だけに、かなり高い好意度を示した。しかし、この好意度が単に教材

としてのバスケットボールに対する態度だけによるものかは断定できない。

2 授業に対する態度はバスケットボールがもっている特性に影響を受けると考えられるが、態度の持ちかたは学生のパーソナリティの要因も大きな影響を受けているようである。

3 因子分析の結果、次の独立した因子をみいだした。a) 好き嫌い、b) 人間関係、c) 情緒の安定、d) 精神的効果、e) 社会生活への貢献、f) 性格への影響、という6個の因子がそれである。

なお、授業は教師のパーソナリティ、指導方法、その学習集団の雰囲気など、およそ、授業に関係するその他の要因とも関係するものと考えられ、今後これらの要因についても検討していきたい。

本論文は、日本体育学会における口頭発表(石村ら1982)に加筆整理したものである。また本研究の一部は金沢大学教育学部昭和57年度教育方法等改善経費の助成をうけた。

#### 参 考 文 献

1. 青井水月：「バスケットボール選手の性格特性および得点とボール処理能力と性格との関係——女子バスケットボール選手の指導に関する一考察——」東京大学体育学紀要，2：9—15，1963
2. Broer. M. R, et al.; "Attitude of University Washington Women Students towards Physical Activity." Research Quarterly, 26—4：492—501, 1955
3. 橋本勲：「スポーツに対する態度の研究」体育の科学 29—3：18—21, 1979
4. 小林篤：「態度測定による体育の授業診断の手引き」, 体育科教育, 22—4：32—46, 1974
5. Likert. R, "A Technique for Measurement of Attitude" Archives Psychology, 1932
6. 松浦義行他：「基礎運動能力からみた大学運動部の類型について」体育学研究, 22—4：189—201 1977
7. 丹羽劭昭：「運動選手のパーソナリティ その性格および体格について」奈良女子大学文学部研究年報 4：100—125, 1961
8. 野口義之「A study of Personality Traits of College Student Athletes」, The Japanese Review Humanistic Study. 日本学術会議文科系連合研究論文集, 10：131—136, 1959
9. 野口義之：「運動選手の性格特性についての研究」体育学研究, 2—5：227—233, 1957
10. 野口義之：「中・高等学校生徒の体育の授業に対する態度」京都教育大学教育研究所報 第一報 20：150—162, 1974
11. 野口義之：「よい授業への方法を求めての基礎的研究(3)——学習集団の雰囲気の因子分析」体育の科学, 30—9：665—670, 1980
12. 野口義之他：「体育の授業に関する因子分析的研究(9の2)——体育の授業評価(学習行動, 学習集団の雰囲気)について——」金沢大学教育学部紀要教育科学編, 31：85—98, 1982
13. 宗倉啓：「大学生が評価する高校体育授業の現状」東京体育学研究, 5：42—47, 1978
14. 徳永幹雄他：「体育の授業の運動の楽しさに関する因子分析」, 健康科学, 2：73—90, 1980
15. 徳永幹雄：「水泳未能学生のパーソナリティに関する研究(第一報)」九州大学体育学研究, 3—1：41—45, 1963
16. 徳永幹雄, 荒井貞光：「体育実技に対する態度の変容とその要因」九州大学体育学研究, 4—5：27—36, 1972
17. 徳永幹雄, 松本寿吉, 橋本公雄：「学生の体型・体力・性格と体育・スポーツに対する態度および活動の関係」, 九州大学体育学研究, 4—4：15—22, 1971
18. 辻岡美延：新性格検査法, 日本心理テスト研究所 1979
19. Wayne B. Brumbach and John. A. Cross, "Attitudes Toward Physical Education of Male Student Entering the Univ of Oregon," Research Quarterly, 36—1：10—16, 1968
20. Wear. C. L, "The Evaluation of Attitude toward Physical Education as an Activity Course", Research Quarterly, 22—3：214—226 1951
21. 吉崎静夫他：「児童による授業評価」日本教育工学雑誌, 4—2：41—51, 1979